

内容	令和4年度	主な意見	令和5年度改良(案)	期待する効果	改良した結果、どのような効果があったか	効果
日時	休日の午前中に開催	休日開催 平日開催(午前中) 開催日の増	A 10/27(金) 11/10(金) AM B 10/27(金) 11/10(金) 夜 C 10/29(日) 11/12(日) AM	休日と平日の2パターンおよび、午前中と夜間で開催することで、若い世代の参加が増えることを期待する。また、参加しやすい日時の検証を行う。	○令和4年度受講者 24名 ⇒ 令和5年度 42名に増加 20代 1名 ⇒ 2名に増加 (申込者は44名) 30代 0人 ⇒ 6人に増加 40代 5名 ⇒ 16名に増加 日と時間帯を複数用意したことで、若い世代の参加者増に繋がった。休日や夜間の申し込みが多くなるのではないかと予想していたが、平日午前のコースが最も申し込みが多い結果となった。また、複数コースを設けた利点として、急に都合がつかなくなった場合に振替が可能となり、修了者の増にも繋がった。	◎ 若い世代の受講者増につながったため。
会場	図書館のみ	開催日時等を工夫し、参加しやすい環境とする。	フェリエ南草津	開催場所を南草津駅に近いフェリエとし、若い世代の参加について検証する。	申込者のうち、場所の問い合わせがあったのは1名のみであった。市民交流プラザ(フェリエ南草津)は、多くの市民が利用し、浸透していると思われ、講座等の開催場所として適していると考えている。	○ 自家用車以外のアクセスが選択可能となり、受講者増につながるため。
定員	30名	事務局案	10名×3コース	少人数制にし、一人一人に目の行き届きやすい講座にすることで、参加者の満足度を向上させる。	夜間コースと休日コースは、どちらも申込者が10名であった。平日コースは、24名もの申し込みがあったが、会場に余裕があったため、全員受講していただくこととした。(抽選は行わなかった。)定員に対し、余裕ある会場を用意することで、受講者増に対応できる。	○ 広い会場を用意することで、多くの受講者を確保できた。
回数	1.5時間×3回	事務局案	1.5時間×2回	前回は、3回の講座すべてに参加できない講座受講者もいたため、2回に短縮することで、参加しやすくなることを狙う。	2回に短縮したことで、受講者にとってハードルが下がり欠席者も少なく、修了者の増に繋がったと考えられる。	○ 回数減によりハードルを下げたことで受講できた方がいた。
広報	市HP、広報くさつ 記者提供	SNSの活用、チラシ等配布	SNS、チラシの配布 市HP、広報くさつ、記者提供	若い世代に訴求するため、SNSを活用する。併せて、子育て世代の行きそうな場所にチラシを配布する。	講座を何で知ったか調査したところ、「広報くさつ」で知った方が申込者44名のうち48%(21名)であり、依然として広報誌を見て情報収集している方が多いことが分かった。市HP、メール、ツイッターは30%(13名)であり、今後はこちらが増加していくものと考えられる。	
チラシ	配布なし	市内各所へ配布 興味を持ってもらう工夫を施す ・参加しやすさをアピール ・参加メリットをアピール (話し方の訓練になる、自己実現、社会貢献、人とのつながり)	関係機関や学校・店舗等に幅広く配布 託児有の旨記載 キャッチフレーズ・愛称を作る 受講のメリット・受講者の感想掲載 参加者に絵本1冊プレゼントの旨記載	前回はチラシを配布しておらず、講座の開催を知ってもらう機会が少なかったため、今回は子育て世代が行きそうな施設等にチラシを配布し、知ってもらう機会を増加させ、参加者増につなげ、効果的なチラシ配布先についての検証を行う。	チラシを作成し、市内各所に配布したところ、申込者の14%(6名)の方がチラシで講座を知ったことが分かった。チラシ配布は、一定の効果があったため、今後とも配布すべきと考える。また、社会教育委員会議で御意見のあった「学校の図書館ボランティア」へチラシによる周知を行ったところ、小学校で活動されている方10名の講座参加につながった。	◎ 様々な媒体により、多くの人に情報を周知でき、受講者増につながった。キャッチコピーも、講座のイメージを向上させる効果が期待できる。
申込方法	メール、電話、FAX	QRコードによる申し込み方法 簡略化	電子申請システム(QRコード) メール、電話、FAX	電子申請システム(QRコード)を採用し、若い世代が申し込みしやすくし、どの申込方法が効果的かの検証を行う。	講座の申し込み方法は、QRコードによる電子申請が44名中37名(84%)であった。電話は6名(14%)、窓口は1名(2%)であった。電子申請は年代問わず、利用者が非常に多く、申し込み方法として最も適しているということが分かった。	◎ 電子申請(QRコード)利用者が非常に多かった。
託児	託児なし	事務局案	託児有	託児を用意し、子育て世代が参加しやすくする。	託児利用は、0歳1名、1歳2名であり少数であった。時間帯のバリエーションが午前と夜間であったことから、園児や小中学生の子育て世代は、託児を利用する必要が少なかったものと考えられる。午後(13時~17時の間)に講座を開催する場合、託児が増加することが予想される。	○ 3名の若い世代(20代1名、30代2名)の受講につながった。
受講後	・LINEグループ・修了者交流会による横のつながり構築 ・ゆうゆうびとバンク登録による活動の場の情報提供	仲間づくりに役立つ 今後の活動が広がる	LINEグループや交流会の紹介 活動の場の情報提供 修了証の発行	講座受講後に、活動や仲間づくりにつながる具体的な情報や場を提供することで、修了者を活動に繋げられるよう働きかける。	修了生の会への参加について 35名の方がアンケート回答内 22名の方が修了生の会に参加したいとの回答であり、現在の活動への参加へとつなげていく予定	○ 活動への意欲醸成につながった。